

# JA庄内たがわ なら防除暦

2025.1.20 時点の農業登録情報をもとに作成

令和7年度(2025年)版

防除時期	薬剤名	対象病害虫(雑草)	希釈倍数	水100ℓ当り 薬剤量	使用時期(収穫前日数)	使用回数	RACコード	備考
定植時	トクチオン細粒剤F	ネダニ類	6~9kg/10a		定植時	1回	I:1B	全面土壌混和又は植溝土壌混和
刈揃え前	バリダシン液剤5	葉腐病、白絹病	800倍	125ml	刈り揃え前まで	3回以内	F:U18	・排水対策を徹底する、過繁茂にならないようにする ・株養成中のみ(収穫が始まってからの刈り捨て時には使用できません)
生育期	トリフミン水和剤	さび病	2000倍	50g	収穫14日前まで	3回以内	F:3	
	ポリオキシシAL水溶剤	白斑葉枯病	1500倍	66g	収穫14日前まで	1回	F:19	
	セイビアーフロアブル20		2000倍	50ml	収穫7日前まで	1回	F:12	
	ストロビーフロアブル	白斑葉枯病、さび病	3000倍	33ml	収穫前日まで	3回以内	F:11	展着剤使用しない
	アフエットフロアブル	白斑葉枯病、さび病、白絹病	2000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	F:7	
	Zボルドー	白斑葉枯病、株腐細菌病	500倍	200g	—	—	F:M01	
	コサイド3000	軟腐病	2000倍	50g	—	—	F:M01	野菜類での登録
	アブロードフロアブル	ネダニ類	500~1000倍	100~200ml	収穫14日前まで	1回	I:16	収穫後、茎葉が伸びだす前に株元灌注する、1㎡当たり1~3ℓ灌注する
	ハチハチ乳剤(劇)	ネギアザミウマ	1000倍	100ml	収穫14日前まで	1回	I:21A F:39	
	リーフガード顆粒水和剤(劇)		1500倍	66g	収穫7日前まで	2回以内	I:14	
	アグロスリン乳剤(劇)		ネギアザミウマ、ネギコガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類	2000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	I:3A
	ガードベイトA	ネキリムシ類	3kg/10a		収穫3日前まで	3回以内	I:3A	株元散布
	ディアナSC	アザミウマ類、ネギコガ	2500倍	40g	収穫前日まで	2回以内	I:5	
モスピラン顆粒水溶剤(劇)	アザミウマ類、アブラムシ類	4000倍	25g	収穫前日まで	3回以内	I:4A		
刈取直後	フロンサイド粉剤	白絹病	20kg/10a		収穫30日前まで	1回	F:29	秋の刈取り直後に株元散布する
	トップジンM水和剤	白斑葉枯病、乾腐病	1000倍	100g	収穫21日前まで	1回	F:1	1㎡当たり3ℓを灌注する
除草剤	ナブ乳剤	1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	150~200ml/10a(薬剤量) 100~150ℓ/10a(散布液量)		雑草生育期イネ科雑草3~5葉期、 但し収穫前日まで	1回	H:1	雑草茎葉散布 又は全面散布
	ロロックス	1年生雑草	100~150g/10a(薬剤量) 70~150ℓ/10a(散布液量)		収穫30日前まで(雑草発生前)	1回	H:5	全面土壌散布、砂土では使用しない
	クレマートU粒剤		4~6kg/10a		定植後(雑草発生前)但し定植10日後まで	1回	H:3	全面土壌散布
	ゴーゴーサン乳剤		200~300mL/10a(薬剤量) 100ℓ/10a(散布液量)		定植後(雑草発生前)但し定植10日後まで	1回	H:3	全面土壌散布
					収穫30日前まで(雑草発生前)			畦間土壌散布
バスタ液剤	300~500ml/10a(薬剤量) 100~150ℓ/10a(散布液量)		収穫前日まで(雑草生育期 耕起前・ は種前・定植前又は畦間処理)		3回以内	H:10	雑草茎葉散布	

・使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで収穫できないことを示します。

### 適正管理について!

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 圃地の適正な排水管理を行う。
3. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
4. みつばちへの配慮を行う。

### 防除器具の農業残留に留意!!

- ・防除器具は、前回散布後に十分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。

### RACコードとは

・農薬ごとの作用性を分類したものを「RACコード」と言い、製品ラベルなどに表示されている。農薬による耐性・抵抗性は、同一農薬、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられている。**RACコードが同一の薬剤の連用は避けること。**